

地域とともに歩む

全鍍連 情報・国際委員 水野 民樹
(ケミカルテック株式会社／愛知県鍍金工業組合)

私は生まれも育ちも愛知県犬山市で、今もこの町の風景とともに暮らしております。以前にも会報で犬山の魅力を語らせていただきましたが、ここ10年で犬山は大きく姿を変え、全国から注目される観光地としてさらに輝きを増しました。改めて、私のふるさと犬山をご紹介します。

犬山市は、木曾川が濃尾平野へと流れ出る要衝に位置し、古くから交通・物流・政治の中心として栄えてきました。戦国の世には武将たちがこの地を巡り、江戸時代には城下町として文化が花開き、その歴史の息遣いは今も町並みに色濃く残っています。

近年は城下町の整備が進み、食べ歩きや町歩きを楽しむ観光客で平日でも賑わいを見せています。SNSで話題になる店も増え、若い世代にも“犬山の魅力”が広く浸透してきました。犬山祭の車山行事はユネスコ無形文化遺産に登録され、鵜飼、成田山、テーマパークなど、四季を通じて楽しめる観光地としての存在感が一段と高まっています。

その中でも、私が変わらず心惹かれるのは国宝・犬山城です。犬山城は天文6年(1537年)、織田信長の叔父にあたる織田信康によって築かれました。信康は尾張北部の要衝を守るためにこの城を築き、以後、犬山は戦国の舞台として重要な役割を果たしていきます。現存する日本最古の様式を持つ天守は、信康がこの地に城を構えた歴史の重みを今に伝えています。

平成29年の落雷で鯨が破損した際には全国

ニュースとなり、犬山城の名はさらに広まりました。最近では、大河ドラマ『豊臣兄弟!』の影響で、戦国時代の舞台としての犬山に再び注目が集まっています。豊臣家と織田家の関係性が描かれる中で、犬山城や織田一族に興味を持ち訪れる方も増え、地元としては嬉しい限りです。

一方で、世界に目を向けると、アメリカやイラクをはじめ国際社会では依然として不安定な情勢が続いています。世界が揺れ動く今だからこそ、長い歴史の中で幾度も戦乱を乗り越え、文化を守り続けてきた犬山の姿に、改めて“平和の尊さ”を感じずにはられません。

犬山城の天守最上階から望む木曾川の清流、御嶽山の雄姿、岐阜城、そして名古屋のビル群まで、自然と都市が織りなす景観はまさに絶景です。春は桜、秋は紅葉と、季節ごとに違う表情を見せ、訪れるたびに新しい発見があります。

歴史を振り返ると、地域が持つ力は時代を超えて人々を支えてきました。犬山がそうであったように、日本もまた技術、文化、人のつながりという確かな強みを持っています。変化の大きい時代ではありますが、私たちが未来に向けて歩み続ける限り、日本には必ず新しい可能性が広がっていくと信じています。歴史を受け継ぎ、未来を創る。その思いを胸に、地域とともに歩む企業として、私たちもまた新しい時代に向けて一步を踏み出してまいりたいと思います。